

Ⅱ 利用

1 利用実績

2014年度の利用実績について、報告する。

1. 加速器運転及びビーム供給状況

加速器運転時間総計は、他機関ビームライン設置のために加速器改造や挿入光源の設置を行い、その間のシャットダウンにより運転時間は減少し、前年度比約18.6%減の1,811時間であった。内訳は、表1に示すとおりビームラインへの「ビーム供給」、加速器の高度化、安定化研究を行う「マシンスタディ」、そして、「加速器故障」から成る。その他、加速器の設備保守・点検等のための「シャットダウン」の時間数も表1に併せて示す。

また、図1にビーム供給時間の月間の推移を示す。

表1 2014年度加速器運転状況

項目	時間数 (時間)
ビーム供給	1,341.5
マシンスタディ	469.5
加速器故障	0
シャットダウン	412.5

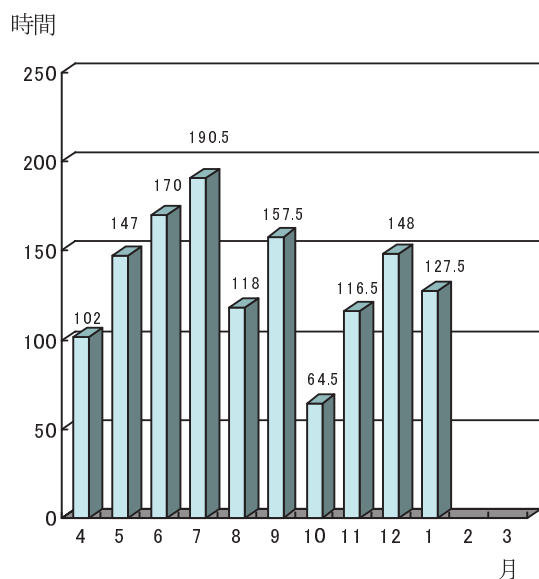


図1 2014年度ビーム供給時間

2. ビームラインの状況

6本の県有ビームライン(BL07、BL09A、BL10、BL11、BL12、BL15)で利用実験が行われた。県有ビームラインの外部利用及び内部利用を合わせた延利用時間は、前年度比約21.8%減の3,472.5時間であった。

図2に県有ビームライン毎の延利用時間を示す。

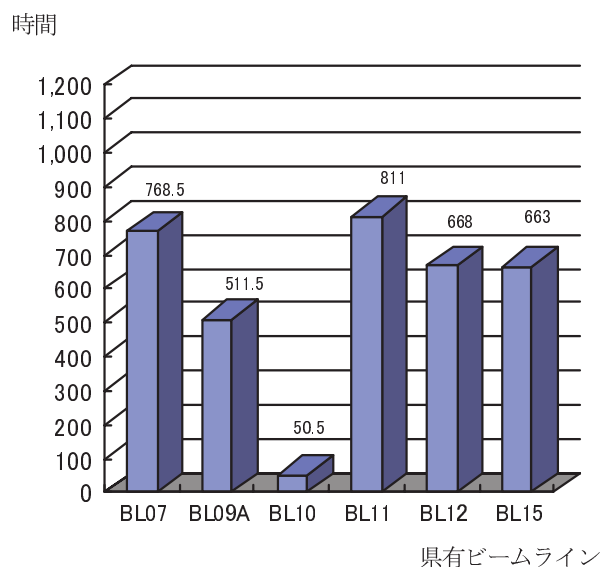


図2 2014年度県有ビームライン毎の延利用時間

また、2本その他機関ビームライン(BL13;佐賀大学、BL06;九州大学)で利用実験が行われた。

なお、BL13、BL06の延利用時間は、それぞれ968時間、988.5時間だった。

3. 利用状況

県有ビームラインの産学官による外部利用時間は、前年度比約25.9%減の2,692時間、利用件数は136件であった。表2に利用状況(利用件数、利用時間)

の概要を、図3に産学官の利用時間の割合を示す。

表2 2014年度利用状況(外部利用)

利用区分	利用件数 (件)	利用時間 (時間)
一般利用	62	1035.5
公共等利用	11	128.50
地域戦略利用	10	233
探索先導利用	19	409
先端創生利用	33	865.5
パイロットユース	0	0
共同研究	1	20.5
計	136	2,692

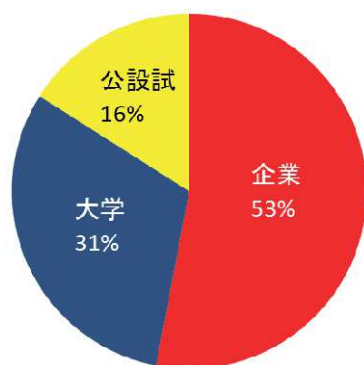


図3 2014年度産学官の利用割合(外部利用)

次に、表3に利用支援を行う利用区分を示す。利用区分は、「一般利用」、「公共等利用」、「トライアルユース」、「地域戦略利用」、「探索先導利用」及び「パイロットユース」等の県指定管理費で行う利用に加えて、外部資金を用いた利用区分である「先端創生利用(長期、短期)」(2013~2015年度;「文部科学省先端研究基盤共用・プラットフォーム形成事業」による利用)を設定した。また、「一般利用」、「公共等利用」の初回利用に限定して無料の「トライアルユース」を実施した(「先端創生利用」のトライアルユースとは別途)。

特に、「探索先導利用」は2012年度に新たに設定した利用区分であり、地域の活性化に結びつく先導的課題(Rタイプ)や基礎科学の領域に属する探索的課題(Fタイプ)の利用支援を実施した。また、

「先端創生利用(長期タイプ、短期タイプ、長期トライアルユース、短期トライアルユース、長期産学連携ユース、短期産学連携ユース)」は、2009~2011年度に実施した「長期利用」の内容を変更したものであり、先端産業に資する実用化及び基盤技術の高度化に関する課題を優先的に採択することとした。

表3 2014年度利用区分の概要(外部利用)

利用区分	概要
一般利用	主に企業利用を想定(学官可) 成果非公開可 有料
公共等利用	大学、公的研究機関に限定 成果公開 有料
トライアルユース	一般利用、公共等利用を対象 成果公開 無料
地域戦略利用	佐賀県試験研究機関の利用 成果公開 有料
探索先導利用	産学官の利用可(F、Rタイプ) 成果公開 有料
先端創生利用 (文部科学省補助事業)	産学官の利用可(長期、短期タイプ) 成果公開 有料 産の利用のみ(長期、短期トライアルユース) 成果公開 無料
パイロットユース	学官(+産)の利用可(長期、短期産学連携ユース) 成果公開 無料 当研究センターの要請で実施 成果公開
共同研究	機関間の契約に基づく研究